

株式会社ジェーシービー

2015年10月7日

### JCB、手のひらによる決済の実用化に向け、海外での実証実験を開始 ～手のひら静脈認証技術を用いた、世界初のグローバル決済スキームの実証実験へ～

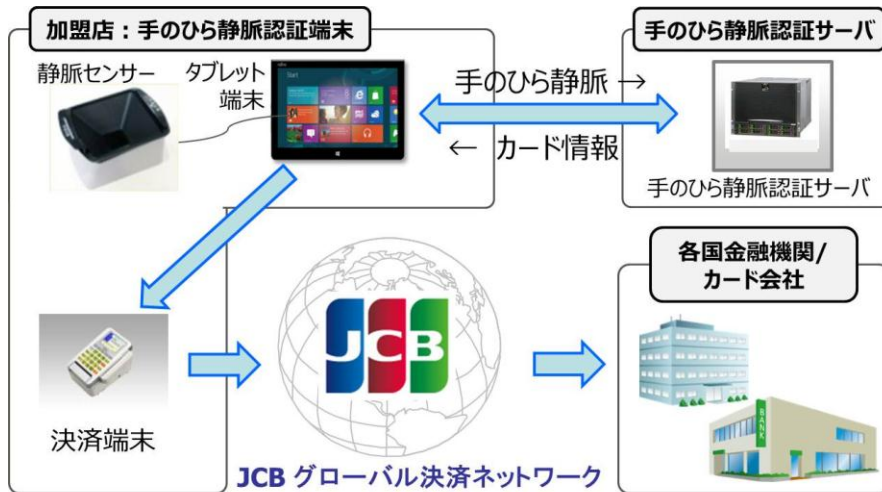
日本発唯一の国際決済ブランド運営主体である株式会社ジェーシービー(本社:東京都港区、代表取締役兼執行役員社長:浜川 一郎、以下:JCB)は、富士通株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:田中 達也) および富士通フロンテック株式会社(本社:東京都稲城市、代表取締役社長:下島 文明)(以下、両社あわせて:富士通)と、手のひらの静脈認証技術を用いた決済スキーム(以降、「本決済スキーム」)の実証実験を、2015年10月に国外にて開催するパートナー企業向けのカンファレンスの場で実施いたします。

本決済スキームは、世界最高レベルの認証精度と耐偽造性能を誇る富士通の静脈認証技術と、国際決済ブランド JCB のネットワークを融合させ、あらかじめ手のひらの情報をカードの情報へ紐付けすることにより、手のひら静脈認証での本人確認により決済を可能とする安全・簡単・便利な決済スキームです。手のひらの情報に対して複数のカードの紐づけが可能のため、カードを持ち歩く必要がなく財布いらずです。

本静脈認証技術は認証精度が高く(別紙参照)、銀行の ATM やセキュリティエリアの入退室管理等すでに多くの採用例があります。本決済スキームは、本認証技術と JCB ブランドの決済ネットワークとの融合により、国・地域を問わず世界の JCB 加盟店で決済が可能となる、世界初の先進的な決済スキームです。

日本国内では、2015年7月 JCB 本社にて社員数百名の参加により、手のひら情報とクレジットカードの紐づけによる実証実験を実施済みです。今回は、国外にてブランドプリペイドカードのスキームでの実証実験を行うことにより、国内外でクレジットカードやプリペイドカードといった様々な決済プロダクトでの利用が可能で、「グローバル決済スキーム」としての実用化へ向けたさらなる検証を行うものです。

#### <手のひらによる決済の仕組みについて>



JCB は、今後も他の国・地域でも実証実験を重ね、お客様およびパートナー企業の皆さまのニーズに沿った本決済スキームの実用化を目指してまいります。国内においては、既に ATM にて手のひら静脈認証技術を導入済みの OKB 大垣共立銀行やその他金融機関と、決済分野における協業を検討してまいります。

今後も JCB は、お客様の多様なニーズにお応えするため、JCB ならではのサービスの開発に取り組み、便利で安全な決済サービスを創出してまいります。

<報道関係者からの問い合わせ先>  
株式会社ジェーシービー 広報部 広報グループ  
TEL: 03-5778-8353

## 別紙:手のひら静脈認証について

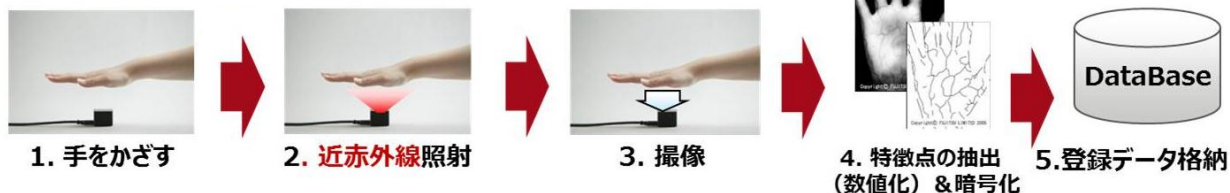
生体情報の内、静脈は「体内情報」であるため、「体表情報」である指紋と比べ偽造が極めて困難であり、手が濡れたり乾燥している状態でも影響をほとんど受けず、認証が可能です。

また、手のひらは血管の本数が多く複雑であるため高精度であると共に幹線となる太い血管により安定した認証を実現し、その認証精度は、他人と間違える可能性が 125 万回に 1 回以下という確率です。

※本人拒否率 0.01%、他人受入率 0.00008%以下。富士通調べ。

これら利点を併せ持つ手のひら静脈認証技術は現在世界約 60 ヶ国、6,300 万人以上の利用実績(2015 年 3 月現在)があり、現在最も注目される生体認証技術の一つです。

### ■ 手のひら静脈認証の操作・処理



※ 登録データに対し、再度 1.~4. で取得した撮影データを比較し、「一致」 or 「不一致」にて本人を特定